

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年4月30日

事業所名 ウィズ・ユース栗東小平井

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	プログラムを分けたり利用時間をずらして対応。	スペースの増設は難しいので、引き続きプログラムや時間帯(中・高校生は遅めの時間)をずらして時間帯当たりの人数をコントロールする。
	2	職員の配置数は適切である	○			部分的(送迎等)に必要な場合もあるので、パート職員を増やしたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		段差にスロープの設置	戸建の物件なので段差があるのは否めない。スロープの設置や気になる箇所はPOP等で利用者にも注意を促す。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		日常業務で不十分な点もあるので、職員会議や毎日の申し送りをしっかり行い、職員間で課題に取り組む姿勢を作っていくたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		今回が初めてのアンケートで自分たちの取り組みを客観的に受け入れることができた。真摯に受け止め改善につなげたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		今回が初めての自己評価であるが、ホームページに掲載の予定をしている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		行っていないので、今後、できるように検討してみる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		県が実施する研修内容を、施設の職員に会議で伝えている。	月1回程度、会議兼研修を行っているが、さらに知識の定着のためにテスト等も実施してみたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者、利用者のニーズを聞き取り、アセスメントを作成できている。	児童の人数が多いため、全員の情報の共有が難しいところではあるが、常勤職員はしっかり児童の特性を理解し、日々の支援に反映させていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		自社のアセスメントシートを基準に状況を把握している。	アセスメントシートの項目は必要に応じて見直し、正確に情報を残せるようにする。誰が行っても同じ情報が聞き取れるようにする。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		○	常勤職員中心に行っている。	固定の内容にとらわれず他社のセミナー等にも参加し、新しいプログラムを取り入れていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			開所1年になるが2020年4月から個別のプログラムを始めた。今後もニーズに合わせて新しいものを作っていくたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇は日常のプログラムに加えてイベント等実施。	長期休暇や休日は日常のプログラムに加えてイベント等実施し、その中で児童に合わせた支援を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		現在、個別の学習支援、体幹トレーニングを行っている。	2020年4月から集団活動に加えて、職員とマンツーマンの学習支援を行っている。個別に対応することで今まで以上にきめ細かい支援が可能となっている。今後もニーズに合わせて使い分けたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日、職員で朝礼を行っている。	朝礼に加えて業務日誌にも役割分担を明記している。当日の業務がスムーズに進むように確認しあっている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	当日の支援終了後は難しいので、翌日の朝礼等に振り返りを行っている。	シフトの時間や送迎の帰り時間等で、支援終了後に話す機会を持つことは難しいので、翌日の朝礼で確認できるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録は抜けもれなく、支援に役立てている。	児童の人数が多いこともあり、全員の記録を職員会議で確認することが難しいが、必要に応じていつでも確認できる状態に整理しておく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		期間ごとにモニタリングを行って支援計画に反映している。	児童の人数が多く、特定の職員がモニタリングを担当すると負担が大きいため、常勤の指導員にも協力を得ながら適切なモニタリング、支援計画の作成を進めていく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○		ガイドラインの周知が弱いので、まず次回の職員会議で説明し、そこから支援に移したい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○		現在は固定された職員が参加しているが、今後は状況に合わせて柔軟に職員が対応できるようにしたい。日ごろから児童についてよく知るようにする。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○		保護者からスケジュール等、情報収集しているが、今後は直接、学校とも連携を深めていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在は医療的ケアが必要な児童の受け入れは考えていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		情報交換する機会が少なかったため、今後は必要に応じて行っていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		まだ卒業生が出ていないが、情報提供できる準備は行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		助言を得たり研修の参加の頻度はまだ少ないので、今後は積極的に取り組んでいきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		今後は活動の機会を増やしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		今後は活動の機会を増やしていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		気軽にやりとりできるように事業所LINEを設けている。	電話、面談、LINEで保護者との連携を図っている。やり取りが少ない家庭もあるので、定期的に機会を持つようにもしたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		積極的にペアレント・トレーニングは行っていないが、面談等で必要に応じて助言は行っている。今後は保護者対象に研修等も考えたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			利用契約時に説明を行っている。その他、必要に応じて対応している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		来所いただいたの面談や事業所LINEでも相談している。	相談を受けた場合の対応はもちろん、こちらからも気になるところは早めの助言等、行っていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者同士の連携は行っていなかったため、今後は機会を設けていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		来所いただき、状況を確認。迅速に職員からも聞き取りを行っている。	ケースによって対応は様々であるが、職員と相談し迅速に対策を取るようになっている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		定期的に会報は発行できていないので、今後は担当者を決め毎月、発行できるようにしていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付き書庫に保管。	現在と同じように鍵付きの書庫で個人情報は管理していく。また使用した情報はすぐに戻すように職員にも徹底してもらう。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			十分ではないところもあるが、今後も職員の専門性を高め、理解を深めていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		できていないので、今後検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		自社のマニュアルを作成し、閲覧できるようにしている。	保護者の方への周知が弱いので、ホームページに掲載等、改善を試みる。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		消防訓練等、年間スケジュールに入れていく。	その他、必要な訓練は年間スケジュールに落とし込み行えるようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に研修を行っている。	職員会議で虐待防止の研修を行っている。全職員が情報を共有できるように周知の徹底に努めたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		現在は身体拘束が必要な児童を預かっていないが、必要な場合はご家庭の確認をとり、支援計画に記載して対処する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		特段、食物アレルギーに配慮する児童を預かっていないが、今後、必要に応じて医師の指示を仰ぐ。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		担当者中心に作成している。	事例は出されているが、情報共有が弱いので研修時に紹介していく。